

NEWS RELEASE
各位

取材依頼

2025年9月30日

ニッポンハム食の未来財団 2024年度研究助成事業の成果報告会を開催

開催日：10月14日(火)13:30～ 会場：AP品川 (東京都港区)

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団（茨城県つくば市、理事長：井手 弘）は10月14日(火)、2024年度研究助成事業の成果報告会をAP品川にて開催いたします。

本研究助成は、当財団の主要事業の一つで、対象領域を「食物アレルギー」に特化しているのが最大の特徴です。食物アレルギーの有症率が年々増えているにもかかわらず、根本的な治療法や予防法などが確立されていない現状を打開することを目指しています。

成果報告会では、2024年度に実施された助成研究成果が報告されます。第一部は16名の若手研究者、第二部は6組の共同研究チーム代表者から研究報告があります。当財団では「食物アレルギー」の解決には異分野（例、医学と食品）や幅広い世代による協働が不可欠と考えています。

成果報告会では食物アレルギー研究成果の普及だけでなく、問題解決にあたるさまざまな立場の方々が一堂に会し、問題解決に向けた交流と議論を深める場として企画しています。

開催概要（プログラムは次ページ以降に記載）

■日時

2025年10月14日(火)

〈第一部〉個人研究助成 ポスター報告会 13時30分～14時30分

〈第二部〉共同研究助成 口頭成果報告会 15時00分～17時30分

〈第三部〉学術交流会 17時40分～19時15分

■会場

AP品川（東京都港区港南1-6-31 品川東急ビル 8F）

■内容

2024年度研究助成事業採択者によるポスター発表（16課題）
及び 口頭報告（6課題）

■出席予定者

発表者（2024年度研究助成事業 共同・個人研究採択者）、
過去の採択者、当財団関係者（評議員、監事、理事、事務局等）、
研究助成審査委員、報道関係者等



休憩時に「しまね夢こむぎ®※」で
作った「パウンドケーキ」と
「クッキー」を試食提供。
ぜひ研究成果を体感してください。

※森田栄伸先生（島根大学名誉教授）の研究グループが開発したω-5グリアジン欠損食用小麦。主要なターゲットは大人の小麦依存性運動誘発アナフィラキシー。当財団は3年間助成を実施。

取材申し込み（締め切り：10月9日(木)17時）

ご取材いただける場合は、下記、お問い合わせ先にご連絡をお願いいたします。

※リリースに関してのお問い合わせ先

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団 小泉・高萩まで
TEL 029-893-4466 FAX 029-893-4360
info@miraizaidan.or.jp

日 時 : 2025年10月14日 (火) 13時30分～14時30分

場 所 : AP品川 Fルーム

発 表 者 : 2024年度研究助成事業 個人研究採択者

コアタイム※: 偶数演題番号13時30分～14時00分、奇数演題番号14時00分から14時30分

※発表者がポスター前で研究内容を発表、質疑応答する時間

番号	氏名	所属機関	課題名
1	赤川 翔平	関西医科大学 医学部 小児科学講座 講師	水溶性食物繊維（イヌリン）を用いた重症心身障がい児の腸内細菌叢改善によるアレルギー予防戦略の開発
2	貝谷 綾子	順天堂大学大学院医学研究科 アトピー疾患研究センター 特任助教	IgE 交差抗原による食物アレルギーの病態解明と予防法開発
3	佐藤 拓弥	高知大学大学院 総合人間自然科学研究科（博士課程）医学専攻 医療学コース 臨床腫瘍学 大学院生	獣肉アレルギーとセツキシマブ過敏症の関連性に関する前向きな検討及びセツキシマブ過敏症のスクリーニング法の考案
4	武村 直紀	大阪大学大学院薬学研究科 生体応答免疫分野 准教授	上皮細胞傷害性を示すナノ粒子が皮膚感作と食物アレルギーに及ぼす影響の解析と予防対策の創出
5	谷田 寿志	名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 助教	胃食道逆流を背景とした牛乳アレルギーモデルマウスの感作初期の自然免疫の解明
6	田村 誠朗	兵庫医科大学 医学部 糖尿病内分泌・免疫内科 助教	アニサキスアレルギー患者のアニサキスアレルギーコンポーネントと病態の解析
7	内藤 宙大	名古屋学芸大学 管理栄養学部 助教	状態の異なる鶏卵アレルギーのアレルゲン性の解析
8	長田 夕佳	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教	アレルゲン性を基盤とした IgE 受容体の脱感作メカニズムの解明と食物アレルギー治療への応用
9	福富 友馬	独立行政法人国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 臨床研究推進部長	成人に持ち越した小児発症食物アレルギー患者の社会的自立度に関する実態調査： Webを介したpopulation-based study
10	藤岡 数記	京都府立医科大学大学院 医学研究科 免疫内科学 病院助教	種々の環境物質への対策を通じた経皮感作食物アレルギー予防の可能性
11	三苫 修也	宮崎大学 医学部 医学科 感染症学講座 免疫学分野 助教	食物アレルギーに対する舌下免疫療法の予防効果と作用機序の解明
12	山下 恒聖	昭和医科大学 医学部 小児科学講座 助教	超重症牛乳アレルギー患者に対する極微量牛乳経口負荷試験が耐性誘導に与える有効性を検証する前向き観察研究
13	山本 健	千葉大学医学部附属病院 小児科 助教	小児牛乳アレルギー患者における重症化メカニズム解明とビタミンD併用による新規経口免疫療法の開発
14	横大路 智治	広島大学大学院 医系科学研究科（薬） 准教授	低アレルゲン化食用 1BS-18 小麦系統を利用した安全性の高い小麦アレルギーの減感作療法の開発
15	井原 聡三郎	東京大学医学部附属病院 消化器内科 助教	樹状細胞のTGF-βシグナルによる食物アレルギーの制御機構
16	松岡 諒	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 共同研究員	新生児・乳児早期に発症する消化管アレルギーの病態解明

日 時 : 2024年10月14日(火) 15時00分～17時30分
場 所 : AP品川 Aルーム
発 表 者 : 2024年度研究助成事業 共同研究採択者

15:00 開会挨拶

15:10～15:30 野菜摂取と学童期の食物アレルギー：腸内細菌を含む網羅的コホート研究
楠 隆
龍谷大学 農学部 食品栄養学科 小児保健栄養学研究室 教授

15:30～15:50 重症果物およびナッツ類アレルギー診断における GRP の有用性
近藤 康人
藤田医科大学ばんだね病院小児科 教授

15:50～16:10 食物アレルギーの治療におけるD-アミノ酸含有ビオチニル化ペプチドの有用性の検証
佐藤 陽
宮城学院女子大学 生活科学部 食品栄養学科 教授

16:10～16:25 (休憩15分;「しまね夢こむぎ®」で作った焼き菓子を試食)

16:25～16:45 小麦アレルギー予防経口酵素剤の高効能化を実現する、
第二世代グルテン分解酵素の創生
田中 俊一
京都府立大学 生命理工情報学部 准教授

16:45～17:05 ポリフェノール代謝物による樹状細胞遊走調節を介した食物アレルギーの制御
早坂 晴子
近畿大学 理工学部 教授

17:05～17:25 食物蛋白誘発胃腸症(FPIES)患者の尿中脂質バイオマーカーの探索
山本 貴和子
国立成育医療研究センター・アレルギーセンター 診療部長

17:25 閉会挨拶

17:30 写真撮影

17:40～19:15 «第三部 学術交流会»

※敬称略

【報告資料のWeb公開】

https://www.miraizaidan.or.jp/specialist/grants/2023/02_event.html

※9月30日(火) 10時より成果報告会要旨集を公開いたします。

